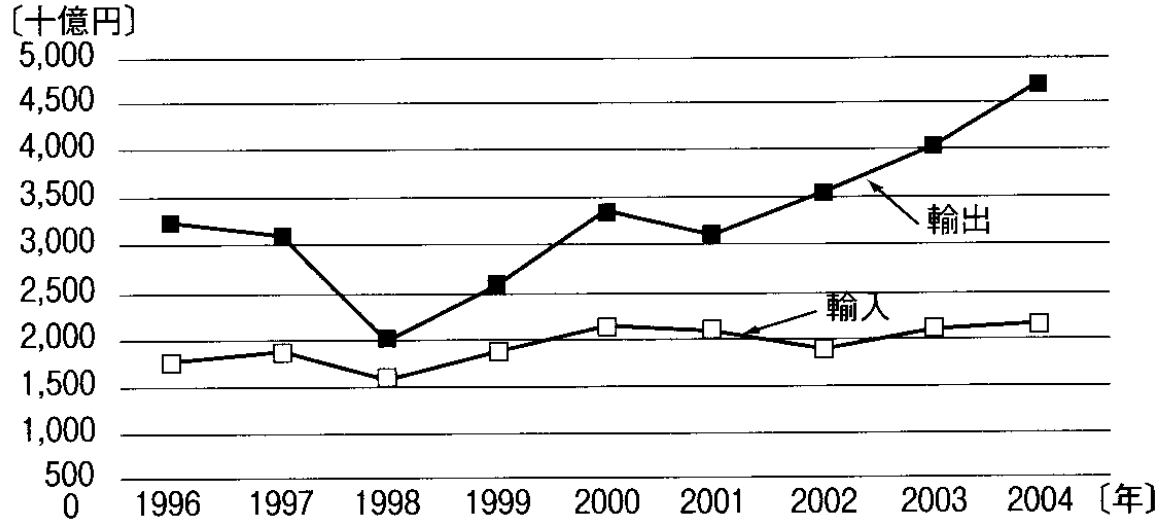
【問１】　図は，我が国のある国に対する輸出入額の推移を示したものであるがこの図から確実にいえるのはどれか。【国Ⅱ_18 年度】353_3*



1　1996～2004 年の間で輸出額と輸入額の差が 1 兆 5 千億円を超えた年は 3 回ある。

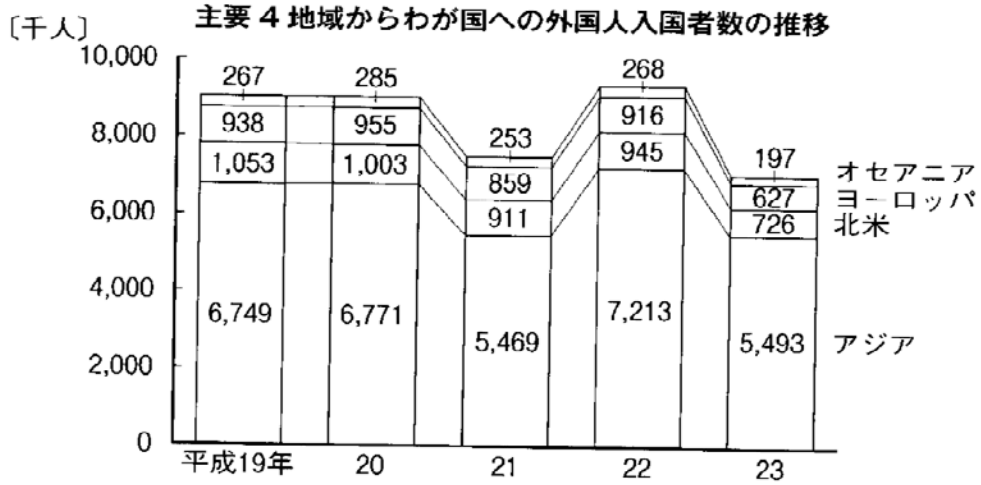
2　1998 年における輸出額の対前年減少率は，30%より小さい。

3　1998 年における輸出額と輸入額の差は，2004 年におけるそれの 5 分の 1 よりも多い。

4　1998 年おける輸入額の対前年減少率は，2001 年における輸出額のそれよりも小さい。

5　1998 年以降，輸出額と輸入額の差が年々広がっており，2004 年には，その差額が輸入額を上回った。

【問２】 次の図から正しくいえるのはどれか。 【地上（都）25 年度】348_0*



1 平成 19 年から 21 年までの 3 か年の外国人入国者数の累計を地域別にみると，アジアからの外国人入国者数は，オセアニアからの外国人入国者数を 18,500 千人以上，上回っている。

2 平成 19 年から 23 年までの 5 か年におけるヨーロッパからの外国人入国者数の 1 年当たりの平均は，870 千人を上回っている。

3 平成 20 年から 23 年までの各年についてみると，北米からの外国人入国者数に対するアジアからの外国人入国者数の比率は，いずれの年も 7.0 を下回っている。

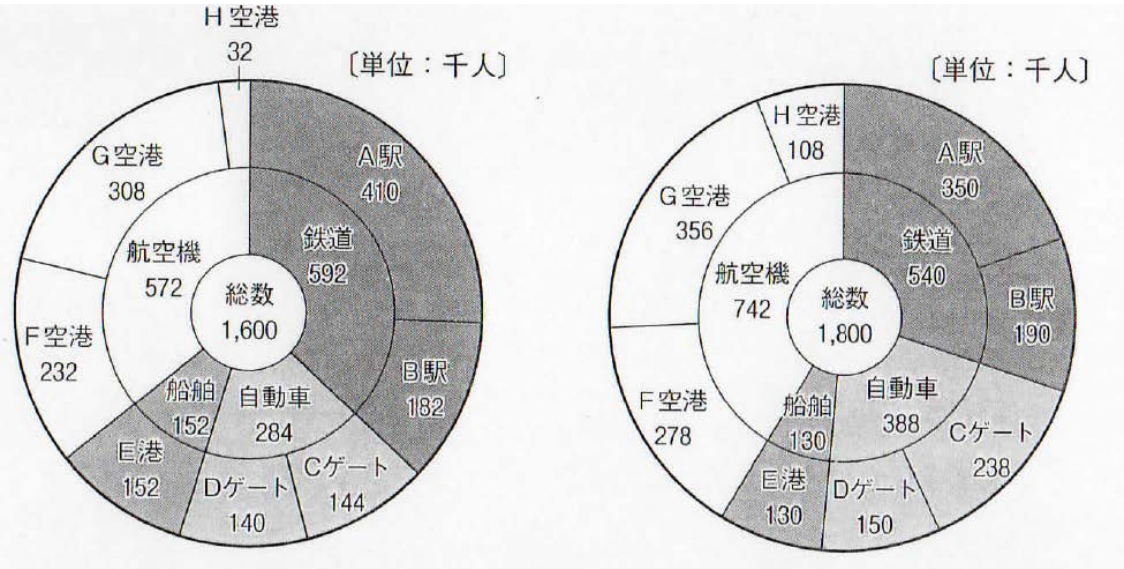
4 平成 20 年における北米からの外国人入国者数とオセアニアからの外国人入国者数の計を 100 としたとき，23 年における北米からの外国人入国者数とオセアニアからの外国人入国者数の計の指数は 75 を下回っている。

5 平成 22 年における外国人入国者数の対前年増加率を地域別にみると，最も大きいのはアジアからの外国人入国者数であり，最も小さいのはヨーロッパからの外国人入国者数である。

【問３】　図は，ある国における 1995 年及び 2005 年の出国者数を出国手段別，出国場所別に示したものである。これから確実にいえるのはどれか。

なお，陸路とは，鉄道と自動車である。　　【国税専門 21 年度】357_7*

1995年の出国手段別・場所別人数　　**2005年の出国手段別・場所別人数**



1　出国者総数に占める出国手段別人数の割合をみると，陸路は，1995 年，2005 年ともに４割未満である。

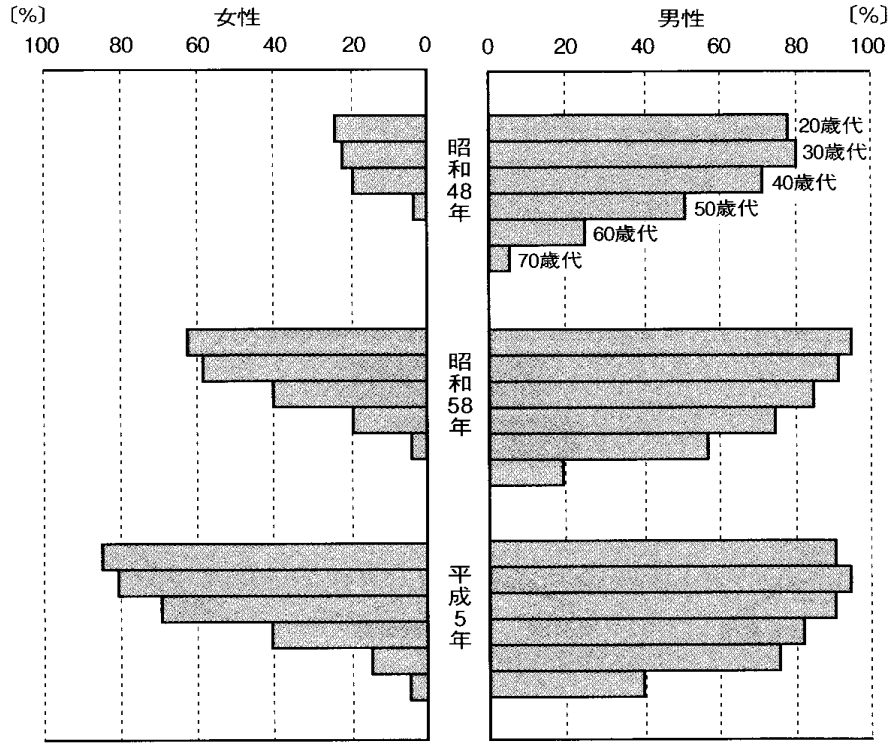
2　1995 年と比べて 2005 年に出国者数が最も増えている出国場所は，H 空港である。

3　出国者総数に占める出国手段別人数の割合をみると，海路と空路は，いずれも 1995 年より 2005 年のほうが小さい。

4　出国者総数に占める出国場所別人数の割合をみると，B 駅は 1995 年より 2005 年のほうが大きい。

5　出国手段別人数に占める出国場所別人数の割合をみると，G 空港は 1995 年より 2005 年のほうが小さい。

【問４】 図はある都市の自動車運転免許の保有率を年齢階層別に示したものだが，これからいえることとして妥当なのはどれか。 【国Ⅱ種８年度】379_4*



1 昭和 48 年の 20 歳代の男女全体で見ると，保有率はおおむね約 50%台半ばである。

2 昭和 58 年の女性の 20 歳代と 30 歳代の保有者数を合計すると，女性の保有者全体の半分以上を占めている。

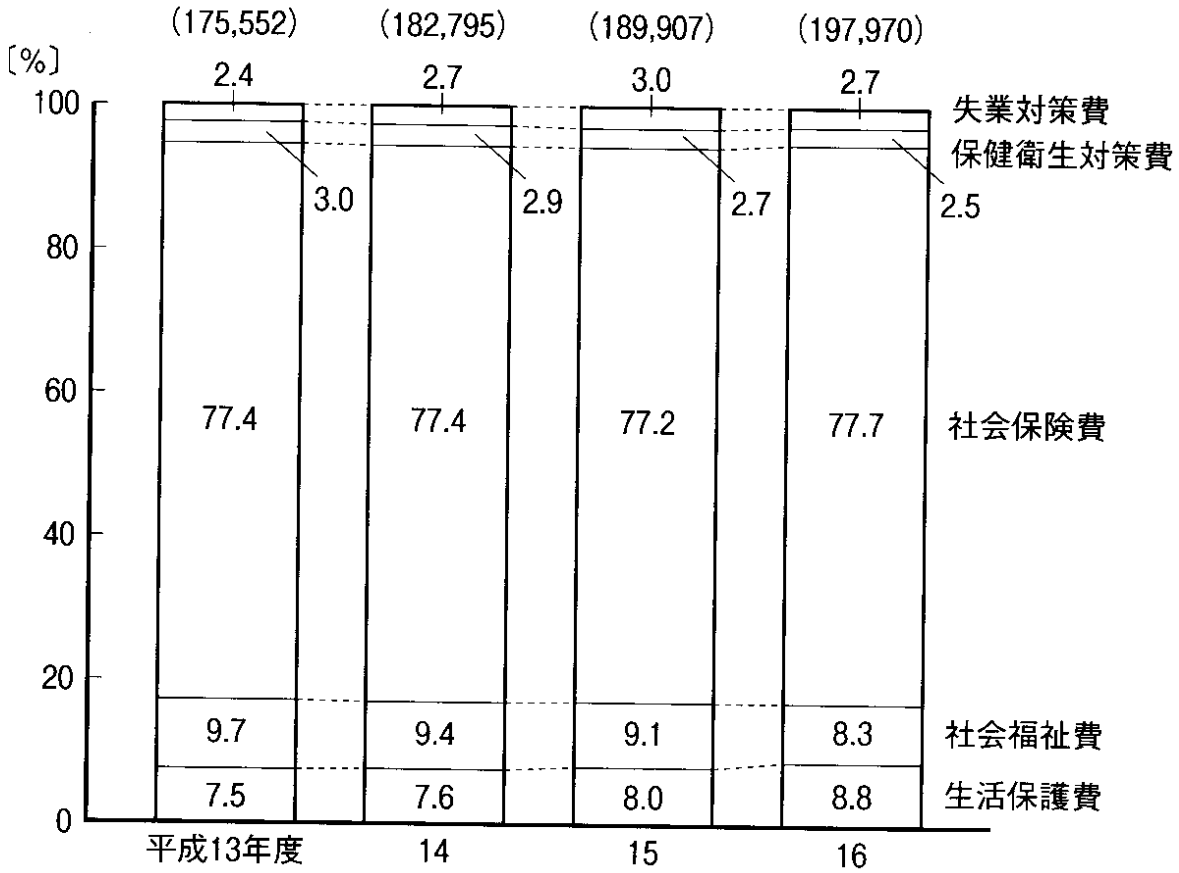
3 男性について平成 5 年を昭和 58 年と比べると，20 歳代～40 歳代の保有者の増加数の合計よりも，60 歳代と 70 歳代の保有者の増加数の合計のほうが大きい。

4 女性の場合いずれの年においても，20 歳代の保有率はほかの年代の保有率よりも高い。

5 いずれの年のいずれの年齢階層においても，男性の保有者数が女性の保有者数を上回っている。

【問５】　次の図から正しくいえるのはどれか。　　【地上_17 年度】382_7*

わが国の社会保障関係費の構成比の推移



［注］（　）内は，社会保障関係費の合計〔単位：億円〕を示す。

1　平成 13 年度から 16 年度までの保健衛生対策費の累計は 25,000 億円を上回っている。

2　平成 14 年度から 16 年度までのうち，生活保護費の前年度に対する増加額が最も多いのは 16 年度であり，最も少ないのは 15 年度である。

3　平成 14 年度から 16 年度までの各年度について見ると，社会保険費の対前年度増加率は，いずれの年度も 3%を上回っている。

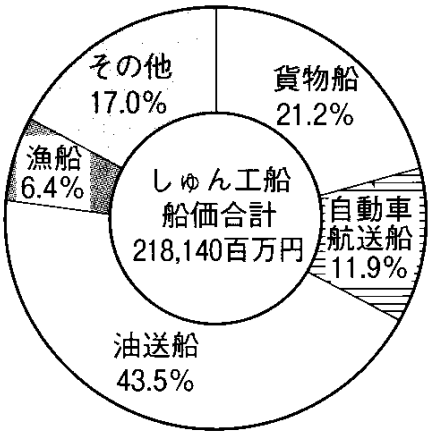
4　生活保護費及び失業対策費の計について見ると，平成 16 年度は 13 年度を 6,000 億円以上，上回っている。

5　社会福祉費について見ると，平成 13 年度に対する 16 年度の比率は 0.9 を下回っている。

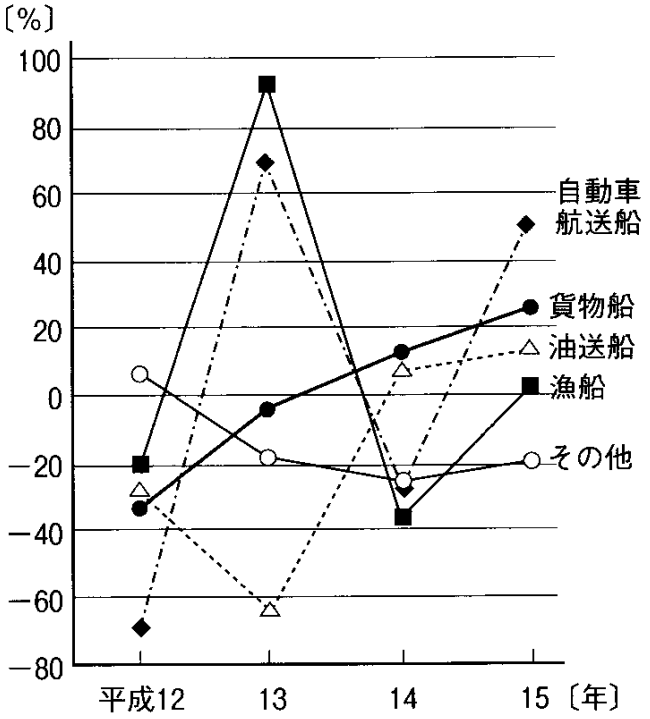
【問６】 次の図から正しくいえるのはどれか。　　【地上_17 年度】411_3*‘

わが国の鋼船における国内船のしゅん工船船価の状況

用途別の構成比（平成11年）



用途別の対前年増加率の推移



1　貨物船のしゅん工船船価について見ると，平成 11 年に対する 13 年の比率は，0.6 を下回っている。

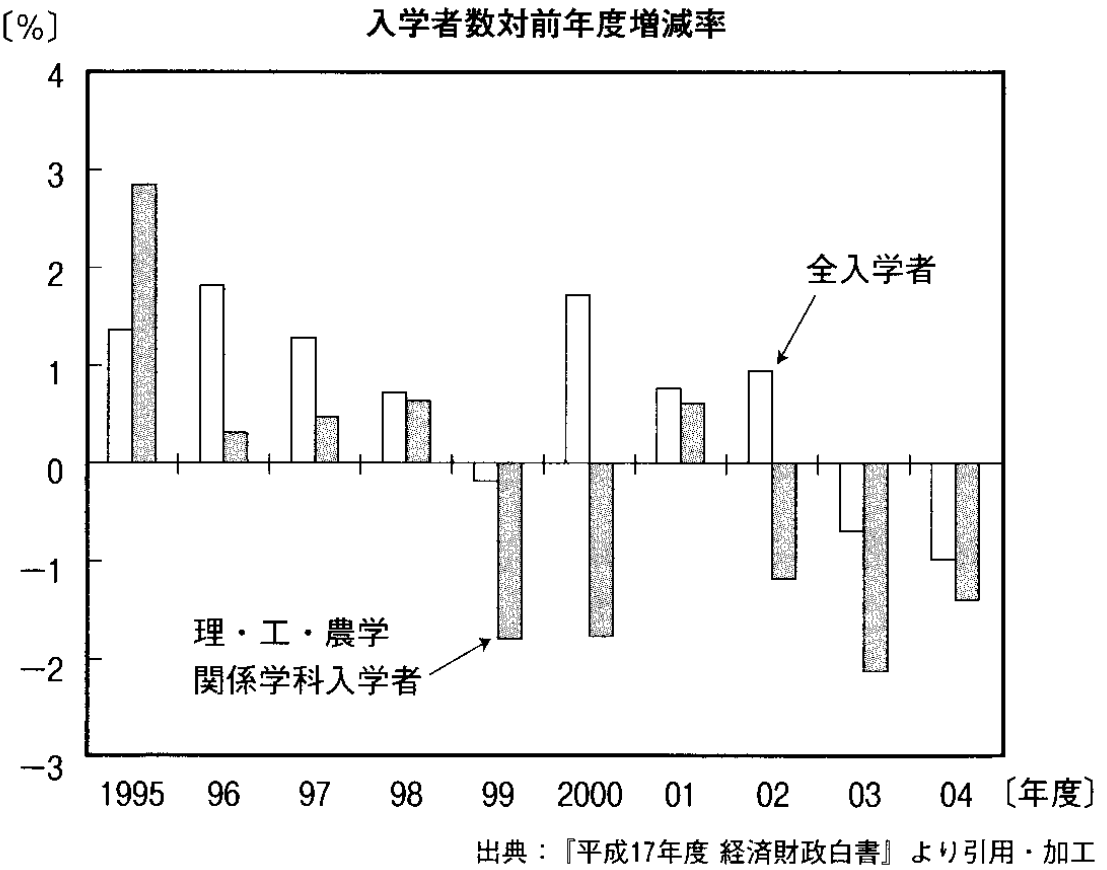
2　平成 12 年におけるその他のしゅん工船船価を指数 100 としたとき，15 年の指数は 50 を下回っている。

3　しゅん工船船価のうち，平成 12 年に対する 13 年の増加額が最も多いのは自動車航送船であり，次に多いのは漁船である。

4　平成 14 年のしゅん工船船価について見ると，自動車航送船はその他を上回っている。

5　油送船のしゅん工船船価について見ると，平成 15 年は 14 年を 5,000 百万円以上，上回っている。

【問７】　図は，我が国の大学入学者数について，全入学者及び理・工・農学関係学科入学者の対前年度増減率の推移を示したものである。この図からいえることとして最も妥当なのはどれか。　【国Ⅱ_18 年度】412_5*



1　理・工・農学関係学科入学者の全入学者に占める比率は，1995 年度をピークに，それ以降一貫して低下している。

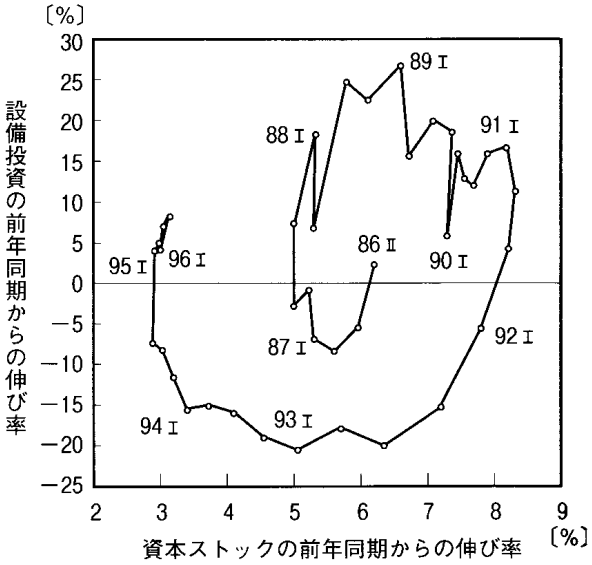
2　理・工・農学関係学科入学者数は，1995 年度をピークにして，年々減少傾向にある。

3　2000 年度以降，全入学者に占める理・工・農学関係学科入学者の割合は，30%を超えている。

4　理・工・農学関係学科入学者とそれ以外の学科の入学者の入学者数の差が最も大きくなったのは，1999 年度である。

5　理・工・農学関係学科以外の学科の入学者の数が最も多かったのは，2001 年度である。

【問８】　図は 1986 年から 1996 年までの製造業の設備投資と資本ストックの前年同期からの伸び率を表したものである。図から確実にいえるのはどれか。ただし，図中「86 Ⅱ」とは 1986 年の第２期をいい，また，各年は第１期から第４期までの４つの時期に区分されているものとする。　【国税 10 年度】418_8*



1　1992 年の第１期から 1994 年の第４期までの各期においては，設備投資と資本スドックはともに，前年同期より減少している。

2　1988 年の第１期から 1990 年の第４期までの各期においては，資本ストックは前年同期より増加しているものの，設備投資は必ずしも前年同期より増加しているわけではない。

3　1986 年の第２期と同年の第３期を比較した場合，資本ストックは第３期のほうが大きく，設備投資は第２期のほうが大きい。

４　資本ストックの前年同期比が 5%未満である期は，設備投資の前年同期比がマイナスとなっている。

5　1987 年の第１期から第４期までの各期においては，設備投資は必ずしも前年同期より増加していないものの，資本ストックは前年同期より増加している。